

有水中学校校長室より

令和6年3月16日(土)

文責 木宮 崇子

卒業おめでとうございます。

式辞

式辞

九名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今手にした卒業証書は、中学校三年間の教育過程を修了した証として、また小学校からの九年間の義務教育を修了した証として大切にして下さい。義務教育の修了は、人生の大切な節目です。この節目にこれまで皆さんを育んで下さった保護者の方に、感謝の気持ちを是非伝えて下さい。

皆さんのが入学した時はコロナ感染の不安の中にあり、様々な制限が活動の幅を狭くしていました。今も感染の不安が残るとは言え、この三年間で劇的に世の中は変化しました。感染対策に明け暮れた日々など遠い昔のことのようです。歳月は様々なものを変化させます。皆さんも、この三年間でずいぶん変化しました。心もとない三年前の姿を考えれば、たくましい姿で今ここにいることは感慨深いとしか言いようがありません。

体育大会や、学習発表会等の大きな行事では、個性豊かなキャラクターで明るい風を呼び込み、笑顔の多い時間を作り出してくれました。また、宮崎カーフェリー新船初の修学旅行生ということで、夕暮れの宮崎港で取材を受け、テレビや新聞で報道されました。振り返れば、華やかで楽しくにぎやかだった光景を思い出すことが多いのではないでしょうか。皆さんは、九名の同級生が肩を寄せ合い、助け合い、仲睦まじく、天真爛漫に生活していました。友達と交わした会話、これから的人生で きっと思い起こすであろう、授業、朝の会、帰りの会での先生方の言葉。登下校で通る急こう配の坂や、ちょっと薄暗い生徒玄関。秋になると困ってしまうほど地面を埋め尽くす銀杏。給食の重い食缶をもって上がった階段や、体育館へ続く渡り廊下。ひなたぼっこをした犬走。学校生活の当たり前の光景や、さもない出来事こそ真の宝物です。いつか心の中から取り出し思い出して下さい。皆さんは、保護者の方々、地域の方々、先生方からたっぷりの愛情を注がれ成長してきました。暖かく見守ってくれた周囲の方々、そして学校生活を共に歩んできた仲間との縁は、生涯忘れないでください。

これまで周囲の大人の深い愛情に育まれ、気心知れた仲間の暖かさに恵まれた心安らぐ日々だったことでしょう。有水中学校を卒業すれば、皆さんの世界は広がります。そこでは初めての体験、知識の広がり、多くの人の出会い、胸躍るようなことがたくさんあるでしょう。人として成長し、自分の持つ可能性の広がりを実感することもできるでしょう。一方で、乗り越えなければならない苦しいことや、予想しなかった困難が皆さんを悩ませ苦しませるでしょう。世界が広がるということは、自分にとって都合の良いことばかりではありません。良いことも悪いこともすべて含めてそれが皆さんの人生です。へこたれずに雑草のようにしぶとく、竹のようにしなやかで頑丈に根を張り、自分の人生をたくましく生き抜いてくれることを期待します。

今、社会の仕組みの急速な変化や、これまでになかった災害の発生等、予想できない明日が私たちを待ち構えています。近い将来、保護者のもとを旅立ち、精神的にも、経済的にも自分の力で生きていかなければなりません。中学校までの学び以上に高校での学びは、社会へと独り立ちする自分を鍛える場となります。気を引き締め、自立へのステップとして、生きる力をしっかりと身に付けてください。

一日の終わりに、今日はいい日だったと感じることのできる日が、卒業生の皆さんのがこれから的人生に、何日も何日も訪れるよう祈念します。

高校は自分で希望して学びに行く場所です。学ぶことをあきらめても手を差し伸べてくれる人はそう多くはいません。学校が嫌になったらやめても構いませんよ、というスタンスが高校というものです。早い人で社会に出るまであと三年です。それまで学校という場所で学ぶチャンスがあることは幸せなことです。何としても高校卒業の日が来るまで辛抱強く頑張ってください。①学校へ行くこと。②わからなくとも解けなくとも、勉強に取り組むこと。最低でもこの二つは頑張ってください。皆さんのが、高校の制服を着て、たくましい姿で登下校している姿を見るのを楽しみにしています。